

土壌・肥料・植物栄養学研究連絡委員会報告

土壌資源の保全を求めて

- 土壌資源情報センター設置についての提案 -

平成 15 年 6 月 24 日

日本学術会議

土壌・肥料・植物栄養学研究連絡委員会

この報告は、第 18 期日本学術会議土壌・肥料・作物栄養研究連絡委員会が関係学会の調査結果を基にして審議した結果をとりまとめ、発表するものである。

第 18 期 土壌・肥料・植物栄養学研究連絡委員会

委員長 熊沢喜久雄（第 6 部会員、東京大学名誉教授）
幹事 犬伏 和之（千葉大学園芸学部教授）
岡崎 正規（東京農工大学大学院生物システム応用科学研究所教授）
委員 石橋 信義（佐賀大学名誉教授）
西尾 道德（筑波大学農林工学系教授）
浜崎 忠雄（鹿児島大学農学部教授）
山本 洋子（岡山大学資源生物科学研究所助教授）
吉羽 雅昭（東京農業大学応用生物科学部教授）
米山 忠克（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

要 旨

1. 報告書の名称

「土壌資源の保全を求めて - 土壌資源情報センター設置についての提案 - 」

2. 報告書の内容

1) 作成の背景、現状と問題点

- ・ 21世紀は資源、食料と環境の問題が人類の前に立ちはだかる世紀となりつつある。土壌資源は、持続的生産を保障する上でも地域や地球の環境を保全する上でも最も重要な役割を持つ資源である。
- ・ わが国の土壌調査は、農林水産省、林野庁、国土庁などがそれぞれの必要性に応じて行ってきており、その情報も関係部署にバラバラに存在している。また、それらの情報のデジタル化も進められていないものが多い。デジタル化は各部署が個別に行っており、その情報を共有できる状態になっていない。
- ・ 持続可能な農林業や地域環境の保全などの場面では、圃場・林班や小流域ごとの管理、計画に対応できる5千分の1程度の大縮尺土壌図が必要となるが、現在そのような土壌図は整備されていない。また、既存の土壌図についても更新が必要なものが多い。
- ・ 土壌資源調査は、その重要性にもかかわらず、直接の生産活動と見なされず、利益やコスト効率の算出が難しいため、予算的に活動が縮小されている。また、土壌調査専門家の育成や情報の整備・更新も進まず、土壌資源調査の枠組みが崩れようとしている。
- ・ 健全な土壌資源を次世代に継承するために、緊急の対応が必要である。

2) 改善策、提案等の内容

- ・ 環境保全型農林業、陸上生態系の環境保全機能の維持増進、地域環境の保全などの場面では、圃場・林班や小流域ごとの土壌管理が求められるので、それに対応できる5千分の1の大縮尺土壌図の作製が必要である。
- ・ 日本の土壌資源図の作製と集積、土壌環境モニタリングなどの土壌調査事業の企画・実施と土壌情報の集積、土壌標本・試料の収集・保存、包括的土壌分類体系や土壌調査法の確立、及びこれらの情報・試料の提供・普及と土壌調査専門家の養成は、国家的事業として一元的に行うことが最も効果的であり、あるべき姿である。また、これらの情報は世界とりわけ東・東南アジアの諸国との間で交流させる必要がある。
- ・ このような役割を持ち、日本及び世界のかげがえのない土壌資源を次の世代に継承することに貢献する「土壌博物館」を付置した「土壌資源情報センター」の設置を提案する。

